

ハンガーゼロ(日本国際飢餓対策機構)は、イエス・キリストの精神に基づいて活動する非営利の民間海外協力団体(NGO)です。1981年に誕生して以来、世界の貧困・飢餓問題の解決のために、自立開発協力、教育支援、緊急援助、海外スタッフ派遣、飢餓啓発を行っています。現在は、国際飢餓対策機構連合(Food for the Hungry International Federation)の一員として、20カ国、国内外の80のパートナーと協力し、アジア、アフリカ、中南米の開発途上国で、「ここからだの飢餓」に応える活動をしています。

わたしから始める、世界が変わる

1分間に17人(内12人が子ども)
1日に2万5,000人が
1年間では約1,000万人が
飢餓のために生命を失っています

2024

12

No.413

Hunger Zero News

ハンガーゼロ・ニュース



※ご注意: 原材料には有機黒糖、有機ココアバター、有機全粉乳、有機力カオマス、有機粉状ヘーゼルナッツ等が含まれています。

カレンダーも好評発売中 「地球家族2025年版」

A4サイズ(使用時はA3サイズ 高420mm×巾297mm)。1冊1,100円(税、送料込)国内へのお届けに限りです。※北海道、沖縄に7冊以上の場合、薄型荷物発送方法で2個口以上の荷姿にて発送。

【お支払い】

後払い(銀行振込、郵便振替)お申し込み:
株式会社 キングダムビジネス
スマートフォンは右のQRコードから
電話注文: 06-6755-4877
FAX 注文: 06-6755-4888

キングダムビジネスから フェアトレードチョコレート

フェアトレードチョコレートの世界的定番品。純粋な材料と製法で作られた秋冬限定商品です。
① 1枚480円(税込): 1枚45~50g
② 4枚セット: 送料込 2,000円
③ 10枚セット: 送料込 5,000円
(①②③とも日時指定不可)
※5~9枚の場合は、商品単価×個数+送料600円(日時指定不可)
※11枚以上の場合は、商品単価×個数+宅急便料金



ウクライナ避難民支援

チャリティコンサート

「蓄音器とウッドベースの共演に、ハンドドリップ珈琲で日曜午後のひと時、世界に思いを馳せましょう!」

各入場費1,000円 [自由募金あり]

●演奏・お話し
増田喜治ハンガーゼロ・アンバサダー
(元・名古屋学院大学教授)

① 12/1 @ 15時~17時
会場: G's stream
名古屋市中川区山王 1-5-10 3F

② 12/8 @ 14時~16時
静岡梅屋町キリスト教会
静岡市葵区梅屋町4-6
TEL.054-253-7359

③ 12/22 @ 16時~18時
パークサイドチャペル
愛知県尾張旭市柏井町弥栄 229
TEL.0561-54-8853
増田喜嘉さんチェロ演奏もあり
(LA在住のチェリスト)

問い合わせ: 090-8475-5510
kondo70@gmail.com
ハンガーゼロ 近藤高史



OKUDA DESIGN PROJECT.

貸したい時も、借りたい時も。不動産賃貸のご相談は—

株式会社
オクダコーポレーション
〒197-0003 東京都福生市熊川447-9
042(552)0102
インターネットでお部屋探し <https://okuda-re.co.jp>

サポーターお申込み欄 FAX072-920-2155

氏名	フリガナ	姓	名
(TEL)			
住所	〒		
申込日	年	月	日 NL413号
<input checked="" type="checkbox"/>	下記から希望されるものをお申し込みください		
<input type="checkbox"/>	ハンガーゼロサポーターとして協力します。 ① 毎月 () 円 (1 口 1,000 円) ② 一時募金として 円 円 円 円 円 円 円 円 円 円		
<input type="checkbox"/>	継続募金(JIFH サポーター)として協力します。 毎月 () 円 (1 口 500 円)		
<input type="checkbox"/>	チャイルドサポーター(子ども1人毎月4,000円)の説明書(申込書)を送ってください。		
<input type="checkbox"/>	郵便自動引落し申込書を送って下さい。		
<input type="checkbox"/>	その他の銀行自動引落し申込書を送って下さい。		

上の申込書をコピーして、必要事項を記入の上、FAX又は郵送にて大阪事務所までお送りください。確認書類等を送らせていただきます。お電話やウェブサイトでも申し込みできます。

※記入後にスマホで撮影し、下記メールアドレスにお送り頂いても受付いたします。



クリスマス募金にご協力ください!!

ハンガーゼロ サポーター 現在... **5348** Child Supporter チャイルドサポーター 現在... **0987**人

■発行所 清家弘久
■発行所 一般財団法人 日本国際飢餓対策機構
Webサイトアドレス <http://www.hungerzero.jp>
eメールアドレス general@jifh.org
フェイスブック facebook でハンガーゼロで検索

■募金方法 ※各種方法で随時受付中、詳しくは電話やウェブサイト
①郵便振替 00170-9-68590 一般財団法人日本国際飢餓対策機構
②他の金融機関からの自動振替③クレジット、デジタルコンビニ

大阪 〒581-0032 八尾市弓削町 3-74-1
(広島/沖縄) TEL (072)920-2225 FAX (072)920-2155
東京 〒101-0062 千代田区神田駿河台2-1 OCCビル517号室
(東北) TEL (03)3518-0781 FAX (03)3518-0782
愛知 〒460-0004 名古屋市中区新栄町 2-3 YWCAビル6F
TEL (052)265-7101 FAX (052)265-7132
USA Ainote International c/o Mr. Takehiko Fujikawa
TEL (510)568-4939 FAX (510)568-4939
jifh.ainote@gmail.com HP <https://ainote.org>
アメリカ合衆国の方はHP QRコードから申し込み、クレジット決済が可能になりました。



【本紙の送付についてのお問合せは】左記eメールアドレス、Webサイトのお問い合わせ、または大阪事務所までご連絡ください。

Hunger Zero News 今月号の内容	
ウクライナ避難民支援	P.2-3
アスリートのアリスさん他	
2024クリスマス募金	P.4-5
子どもの健やかな成長をめざす	
ボリビアでの支援を終了、他	P.6
世界食料デー千葉北大会、他	P.7

写真: ケニアのンギライ・ウエスト地区の子どもたち

ウクライナ難民支援

ウクライナ出身のプロ卓球選手で、戦時下のウクライナ女性アスリートのリーダー育成や精神的サポート等を行っている、アリサ・ドゥブロワ氏 (Alisa Dubrova) が、9月26日にハンガーゼロ東京事務所を月井サムエル氏 (本郷台キリスト教会) と共に訪問され、その活動について話して下さいました。



写真中央にアリサさん。月井サムエルさん(左)はハンガーゼロのウクライナ緊急支援ボランティアとして複数回現地に行っていました。右はインタビュアーを行った田村スタッフ

戦時下で困難に直面している女性アスリートたち

Q 戦争が始まった時、アリサさんはどんな体験をされましたか

当時はキーウにいて、2月24日の朝5時に目が覚めると、ヘリコプターによる爆撃で周りの物が崩壊されていました。アパートの地下に逃げ込みましたが、お金も食べ物もありませんでした。バスや電車は人がごった返しており、すぐには逃げる事ができませんでした。2週間後にウクライナの西の方に避難することができました。

Q 戦争中一番怖かったことは

何日この状態が続くのか分からなかったのが、食べ物を買っておこうと思いました。お店に行く時に、森の中を通る必要がありました。森は敵軍が多く潜んでいる場所でもあり、普段飛んでいないヘリコプターも飛んでいて、いつ自分たちが攻撃されるか分からないという恐怖を味わいました。

Q 人々に関わる中で印象に残っている出来事は

ハンガーゼロを通して、ポーランドのワルシャワでアパートを借りることができたことです。当時ウクライナ人はアパートを借りる時、いつお金を払えるか分からないため、難色を示されることがありました。しかし、ハンガーゼロの支援によって120人が入れるアパートを借りることができて、

多くのアスリートたちの避難場所となりました。そこを訪問してきた人々に、クリスチャンはとても行動的で、クリスチャンというヨーロッパの中で一番安心できる場所だと感じると言われたことが印象的です。

ワルシャワのアパートには、ある人は2日、ある人は1週間、半年と、滞在していました。アスリートにとってポーランドはスポーツをするのに適した場所ではないので、次はどうか、どこに住むか、と探していました。ウクライナに戻ると危険な状況ではありますが、言語や文化の異なる他の国に逃げるのではなく、家に帰りたくらいウクライナに帰る人も多かったです。

Q 避難されている方々が現在必要としていることは

避難している人々は、まず帰る家がなくなっているので居住地の再建が必要だと感じています。特に、戦争によって夫を亡くした女性たちが簡単に家を借りられるような体制を整えば、大きな助けになります。また、爆撃によって電力が使えなくなっているため、ポータブル電源があればどこでも使えるようになって感じています。

戦争の中で多くの教会や団体が積極的に行動し、実際にサポートしている様子を見て、市民はもちろん政府も教会やクリスチャンを信頼するようになりました。どの地域に行っても、教会が毛布やシーツを持ってきて泊まる場所を用意してくれるので、その力強いネットワークによって、私も自分一人では助けられなかった人を助けることができました。



女性アスリートの皆さんと

高知ペンテコステ教会隣接のクリニック

医療法人オリーブ

大川内科

循環器内科・内科・老年内科

院長 大川 真理

Q ウクライナの将来に対して

まずは戦争がすぐに終わることです。ウクライナが再興するには多くの時間とエネルギーがかかるかもしれませんが、この働きを続けていきたいと思っています。そして今のように私



たちが実際に働くことを通して、多くの人々や政府が教会やクリスチャンをさらに信頼するようになることを願っています。

Q 女性アスリートにとっての課題は何ですか

戦争によって、政府はスポーツに十分に投資できず、特に女性選手は男性選手と比べても注目を浴びにくい状況です。練習場所がないなどの制限もあり、精神的に辛い状態でもあります。そのため自分のアイデンティティや、人とのコミュニケーションがとても大切で、人との関わりの中で神様と自分と向き合うことが必要とされています。



アリサさんの活動概要

[Champions Way]

ウクライナ国内外における女性スポーツの振興、女性アスリートのリーダーシップの育成、女性アスリートへの心理的・精神的サポートの提供。

[Plus One]

ウクライナ国内で8~15歳を対象にした100以上のスポーツキャンプを実施し、リーダーの育成も行なっています。またキャンプの中では聖書や人間関係の構築について学び、戦争の現実から離れて精神的にリフレッシュもすることができています。

アリサさんは、アルメニア、ジョージアなどロシア語圏の他の国にもスポーツミニストリーを広げようとされており、国境を超えて多くの方々彼女と共に立ち上がり、励まされていくことを願っています。

【ウクライナ緊急支援募金】

募金は…①郵便振替 ②ホームページからのクレジットカード決済利用の2種類

①郵便振替 00170-9-68590 一般財団法人日本国際飢餓対策機構 「ウクライナ緊急支援」と明記
②ホームページ 募金画面からクレジットカード、コンビニ決済がご利用できます。



ウクライナから最新報告

～王ボランティアから～

ハンガーゼロの王ボランティア(写真②右端)は、今年9月から再びウクライナに入り、地元の支援グループやキリスト教会らと協力して様々な支援を継続しています。続けて応援をよろしくお願いいたします。



リヴィウにある孤児院へのサポート活動



リヴィウの負傷兵リハビリセンターでの慰問活動



難民支援を行うハルキウ州の教会に冬用の木材提供



リヴィウの複合難民キャンプでの食事提供

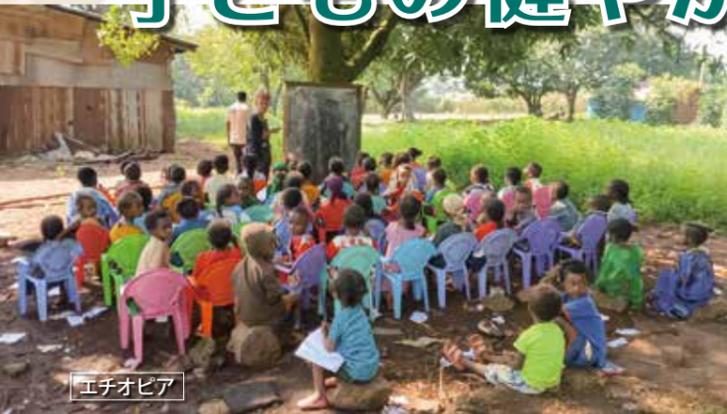


クリスマス募金にご協力ください

FH= 国際飢餓対策機構

このクリスマスの季節、飢餓や貧困に苦しむ地域の子もたちは、栄養のある食事を摂ることが難しかったり、紛争や病気のために親を亡くしたり、教育が受けられなかったりと大変厳しい環境におかれています。そんな子どもたちが健やかに成長していくためには、保護者を始め周りの大人たちがその責任を果たし、愛をもって子どもたちに接していくことができるように手助けが必要です。今年のクリスマス募金は、ハンガーゼロの支援地におけるそのような子どもたちのための取り組みに用いさせていただきます。

子どもの健やかな成長を目指す



エチオピア



ケニア

【エチオピア】子どもに優しい空間を作る

子どもの身体と脳の発達にとって、人生の最初の9年間はとても重要です。持続可能な開発目標 (SDGs) のゴール4は「質の高い教育をみんなに」とありますが、エチオピアでは、特に農村部において、幼児のための教育施設が確立されておらず、依然としてアクセスが限られています。

ハンガーゼロは、現地パートナーであるFHEチオピアと協力して、活動地のオロミア州東ゾレガ地帯ディガ郡において「子どもに優しい空間」を作ることで既存の幼児教育施設を強化し、学校指導者の能力を高めることを通して、子どもたちが神から与えられた潜在能力を発揮できるよう支援することを目指しています。



予定している主な活動は…

- (a) 学校指導者、教師、保護者と活動の範囲、目的、実施の仕方について話し合っ、活動地域内の学校に「子どもに優しい空間」や 幼児教育施設に適した、安全で利用しやすい場所を準備し、良い品質と耐久性のある教材や機器を購入する。
- (b) 保護者、教師、地域ボランティアを対象に、幼児教育の重要性と教材の使用方法についての研修を行い、持続可能な運営ができるよう継続的な支援を提供する。
- (c) 必要な改善点を特定し、活動目標が達成されているかを確認するために、定期的にモニタリングを実施する。

「子どもに優しい空間」内には、「数のコーナー」、紙、クレ

ヨン、粘土、パペットなどを備えた「アートコーナー」、「本のコーナー」などのコーナーを設置。

また共感と問題解決能力を促す遊び、芸術と音楽、外遊びと身体遊び、ヨガのポーズ、呼吸法、感覚を刺激するゲーム、おはなしの会と読み聞かせ、などを提供。

この取り組みを通して、農村部でも質の高い幼児教育と能力の開発を受けることが可能となります。また保護者や教育関係者が幼児教育の重要性に気づき、幼児教育が地域住民の手で継続的に取り組まれることを目指しています。

【ケニア】栄養価の高い食品の利用を促進

ハンガーゼロの現地パートナーであるFHケニアが活動しているサンプル郡は、乾燥・半乾燥地の一つであり、住民は主に牧畜と農業で生計を立てていますが、悪天候や燃料価格の上昇に家畜の高死亡率が重なって、多くの世帯で食料が手に入りにくくなっています。2023年のサンプル郡の急性栄養失調率は20.3%で、栄養不良状態が高いことがわかります。

特にンギライ・ウエストのコミュニティは、人里離れた場所にあるため多様な食品の入手が困難な上、農作物生産



に関する知識が乏しくトウモロコシと豆類の生産が中心で多様性がありません。そこで地域にあるレティ小学校と協力して、モデル農場としての学校農園の設立と運営を支援します。

予定している主な活動は…

- (a) 学校関係者、保護者、子どもたち、地元のコミュニティ・グループ、特に女性グループ、リーダーたちとのミーティングを持つ。
- (b) 栄養価が高く干ばつに強い作物の適切な組み合わせを選択するため、農業改良普及指導員と緊密に協力。
- (c) 農業改良普及員や教育関係の地方政府職員などと連携し、学校農園の効果的な管理方法について、学校の運営委員会や教員の能力開発を支援。
- (d) 教室での学習に支障なく子どもたちが学校農園で活動できるように、4Kクラブの設立・運営を支援、初年度は30人の子どもたちを4Kクラブに参加させる予定。
- (e) 野生動物から農作物を守るためのフェンスの設置と、農園に必要な政府認証の種子、有機肥料、水利資材の調達の支援。
- (f) 学校の運営委員会や政府関係者と協力し、日常的なモニタリングの実施や実践から得た経験の適応・共有を支援。



この活動を通して、子どもたちが学校給食で栄養価の高い食品を利用できるようになること、学校農園が保護者や地域主導の実証農場としての役割を果たし、家庭でも栄養価の高い食品を利用できるようになることを目指します。

【シエラレオネ、ガーナ、ガンビア、ザンビア】

住民が主体となる地域変革VOC活動

ハンガーゼロは、世界飢餓対策機構連合 (FHIF) のメンバーであるFHシエラレオネ、FHガーナ、FHガンビア、Ainoteザンビアと協力し、それぞれの国の飢餓・貧困に苦しむ地域において、ビジョン・オブ・コミュニティ (VOC) の活動を実施しています。

VOCは、地域が良くなるために自ら動くという思いを持った住民たちがリーダーとなり、地域の資源と課題を分析

各国のVOCファシリテーターたち



ボアズ(シエラレオネ)



アキンバデ(シエラレオネ)



マイケル(ザンビア)



バカリ(ガンビア)



テイビット(ガーナ)



ワハブ(ガーナ)

し、ビジョンを持って自主的かつ発展的に地域変革を進めていくことができるように、支援する取り組みです。これまでのニュースレターで、現地パートナーであるフィリピンのHands of Love Philippines (HOLPFI) やコンゴ民主共和国のHands of Love Congo (HOLC) の取り組みが紹介されてきましたが、シエラレオネ、ガーナ、ガンビア、ザンビアでは、自ら有機農業を実践し、人財育成研修を実施して地域リーダーを育てているVOCファシリテーターたちが6人活動しています。

いずれの国も、VOCの研修を受けて地域変革に乗り出した地域リーダー「パイオニア」たちを中心に、住民が子どもたちが飢えることなく毎日食事ができるようにと、共同農園などを通して農作物の生産性を上げるために取り組んでいます。また、ザンビアとシエラレオネのコミュニティでは、「パイオニア」たちがボランティア教師として地域の学校の継続を支えています。



ザンビア

2024

クリスマス募金

① 郵便振替 00170-9-68590
一般財団法人日本国際飢餓対策機構「クリスマス募金」と明記

② WEBサイト「ハンガーゼロ」で検索又はスマホでQRコード入り、クレジットカードを利用

※WEBサイトからの募金受付は12月から

募金目標
800万円



ボリビアでの支援を終了

FH= 国際飢餓対策機構

12年にわたりボリビアのアサワニとリオカイネの両地域で実施されてきた、子どもに焦点を当てた地域開発プログラムが、この12月末で終了を迎えます。その間この活動と子どもたちを温かく応援し、支えてくださった多くのチャイルドサポーターの皆様から感謝申し上げます。

FHボリビアは最も支援を必要とする両地域を選び、2012年に両地域に入り、単に食料支援に留まらず総合的な地域開発プログラムを実施しながら、人々の健康と栄養、子どもの基礎教育の向上、食料安全保障、飲料水へのアクセス、地域リーダーの教育と育成など持続可能な地域開発に重点を置いた活動に取り組んできました。人々が本来与えられている能力の可能性を最大限に発揮できるように、そして貧困の連鎖を断ち切ることができるように地域に仕えてきました。

FHボリビアはこれまで地元のリーダー、教会、地方の行政機関と関係を築き、一緒に連携を取りながら活動を進めてきましたが、来年以降はこれらのリーダーの元で、地域が自分たちの力で歩み出すこととなります。



活動は12月末で終了いたしますが、11月に地域関係者を集めて行われる予定だった支援終了式典は、国内の政情不安により中止となり、来春まで延期されます。詳しい報告は追ってニュースレターでご報告させていただきます。

ボリビア駐在員の小西小百合スタッフは引き続きボリビアに留まり、FHボリビアの活動に従事いたします。

これまでご支援いただきました皆様から感謝申し上げます。



台湾地震被災者支援の最終報告

遺族に寄り添うグリーフケア研修を実施

日本から寄付を下されたハンガーゼロ支援者の皆様、ありがとうございます！

台湾では被災地の牧師を対象に行われたグリーフカウ

セリング研修が9月で終了しました。27名の牧師、専門職の方に対し、FH台湾が受講料を全額補助しました。また今回、最も深刻な被害を受けた地域のアミス長老教会では9月30日の集会で「大規模災害におけるグリーフカウンセリングと牧会活動」と題して講演会を行いました。

FH台湾は引き続き、心理的・精神的な飢餓にある人々を支援していきます。地震は現在も続いています！日本と台湾は、地震と台風において兄弟のようなものです。神からの平和と慰めが両国の上にありますように！

FH台湾代表 曾正智

台湾地震支援募金総額(2024年4月以降)

2024年6月末 時点 101万4,420円

2024年9月25日 時点 113万1,124円

グリーフケアとは：死別の悲しみを抱える遺族へのサポート



私たちロングライフグループは、ハンガーゼロの活動を応援しています。

ロングライフは1986年の創業よりケアサービスと筋。全国に展開しています。

Health & Natural Beauty
ロングライフグループ
 大阪本社 / 〒530-0015 大阪市北区中崎西2-4-12 梅田センタービル25階
 東京本社 / 〒100-0004 東京都千代田区大手町1-6-1 大手町ビル9階
 ロングライフグループ拠点: 北海道/埼玉/東京/神奈川/千葉/静岡/愛知/大阪/兵庫/京都/大分/沖縄/中国(青島)/韓国/インドネシア(ジャカルタ)

0120-550-294

受付時間
9:00~18:00
年中無休



11/9 世界食料デー「千葉北大会」報告

講演後にグループで意見交換会

11月9日(土)、千葉県柏市、流山市からの後援を得て、世界食料デー第11回 千葉北大会が開催されました。

子どもから大人まで参加し、前半はクイズや現地報告動画などの視聴覚教材を通して、世界の現状を知るひとときとなりました。

また後半はハンガーゼロの中村スタッフが世界の貧困の

連鎖、憎しみ・争いの連鎖の現状と、そのような負の連鎖を断ち切るためのハンガーゼロの働きについてお話しし、一人ひとりの愛ある行動から始まる「愛の連鎖」が課題解決のために不可欠であることを語りました。

講演後には、今回初の取り組みとしてグループ・ディスカッションが行われました。世界の飢餓・貧困の解決のために「私たち一人ひとりができることは何か」「自分の周囲や所属しているグループを巻き込んでできることは何か」について考え、話し合うことで、視野が広がり、新たな取り組みのアイデアが生まれる貴重な機会となりました。

みなさんも自分にできること、周囲を巻き込んでできることを一緒に考えてみませんか。



10月 HOLPFIスタッフ研修のため来日



左端にエバスタッフ、右端はHOLPFI代表の酒井駐在員

10月22~29日、ハンズ・オブ・ラブ・フィリピン(HOLPFI)の現地スタッフ3名が研修のために来日、ハンガーゼロ愛知事務所が協力する催事に参加のほか、大阪事務所では活動報告と交流会がもたれました。

10/24夜にはハンガーゼロ・パートナーのオンラインの集いで活動報告を行い、参加者からは「活動を通して村人の考え方(マインドセット)にはどんな変化がありましたか」、「アルサビ小学校の1日の流れや授業科目は」などの質問がありました。

地域統括マネージャーのエバさんは「活動が始まる前、

アルサビ村の人々は、リーダーに依存しがちでビジョンもなく、自分たちの持つ課題に対する解決の方法もわかりませんでした。しかし活動を通して、課題について話し合っ計画を立てることができるようになりました。その結果、非常に小さな村にもかかわらず政府と交渉して村に学校を建てる、という目に見える形の大きな変化が起こり、それを見た



他の地域の方々にも良い刺激になっています。」と話しました。

外部の支援から卒業したアルサビ村が、これからも周囲に希望と刺激を与え続ける存在となっていくことを願います。

備蓄をしながら社会貢献

世界にパンを届けよう



救缶鳥
Kyu-Can-Cho

皆様から回収された救缶鳥は各地に飛んでいきました！

食料が不足している、国内外の豪雨・地震等の災害被災地や、海外の飢餓地域等へ送られました。

おいしさと夢をお届けします。

株式会社パン・アキモト

パンの缶詰 since 1995

〒329-3147
栃木県那須塩原市東小屋295-4
TEL 0287-65-3351

パン・アキモト 検索